

都市空間分野に関する意見対応表

資料2-2

No.	委員	意見	対応
部会【環境・都市空間】			
1	岡本委員	<p>目指す姿1の景観の形成についてです。これまでの景観の担当の皆さんの努力もあって、景観まちづくりの仕組みで地区計画まで至った場所があると記憶していますし、ほかのところでもまちづくり指針を設定し、どんなまちにしたいか、住民主体で進めてこられた経緯もあると思います。このように、地元の皆さんの意見を中心に景観をつくっていただけるのです。札幌らしさに加え、地域らしさを読み込み、それを守っていきましょうという行動ができるのですと伝わるような書き方にしてほしいです。</p> <p>土地利用計画制度については敷地整序型土地区画整理を考えられているのかなと思うのですが、その場所の景観の特性を誰が読み込むのかは少し気になります。景観と一口に言っても、後ろに山並みが見える、家の周りの花壇に同じ花が咲いているなどを含め、近景、中景、遠景とあるので、その読み込み方のキーワードも入っているのが望ましいと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標18の目指す姿1の施策において、土地利用と景観の施策を分けるとともに、地域特性等の観点を追記します。</p> <p>(当初) 多様なライフスタイルを実現でき、札幌らしい魅力あるまちの実現に向けて、土地利用計画制度の適切な運用や地域特性に応じた景観の形成を推進します。</p> <p>(修正案：土地利用と景観の施策を分ける) ○多様なライフスタイルを実現でき、札幌らしい魅力あるまちの実現に向けて、土地利用計画制度の適切な運用などを行ういます。 ○<u>個性的で魅力的な景観の形成に向けて、多様な主体と連携し、地域の個性を踏まえながら、景観まちづくりを推進します。</u></p>
2	牧野委員	<p>基本目標18の目指す姿2の下の充実強化することのところに居心地が良く歩きたくなる空間形成の推進とありますが、この歩きたくなるというのが漠然とし過ぎていてイメージが湧きづらいので、具体的にどうしたら歩きたくなる空間となるのかをもう少し提示できればいいかと思います。</p> <p>私に置き換えてみると、車椅子でも歩ける、通れるものを想像するのですが、歩きたくなるだけではなく、これからは高齢者がどんどん増えていきますので、歩いていたら休みたくなることもあると思うのです。親と一緒に長い距離を歩いていると、必ず座りたい、休みたいと言っていました、そういう場所がないと歩きたくなくなるとも思いますので、歩きたくなるにプラスして、休憩を取りながら回れるような空間づくりも大切だと思いました。</p>	<p>都市空間分野の基本目標18の目指す姿2の【充実強化すること】の「居心地が良く歩きたくなる空間」を「居心地が良く歩きやすく楽しい、多様な活動ができる・滞留したくなる空間」に修正します。</p> <p>(参考)国土交通省「居心地が良く歩きたくなるまちなか」(W,E,D,O) Walkable(ウォークアブル)：歩きたくなる Eye level(アイレベル)：まちに開かれた1階 Diversity(ダイバーシティ)：多様な人の多様な用途、使い方 Open(オープン)：開かれた空間が心地よい ～歩きやすい空間づくりのみならず、まちの1階部分において人々の興味を引く、楽しい環境とすること、人々が思い思いの多様な活動ができる空間の形成、誰にも開かれ、滞在したくなるような空間づくりが必要～</p>

No.	委員	意見	対応
3	山中委員	<p>基本目標18と基本目標19の両方ともビジョンの行政と市民、企業の最初の項目にまちづくりに関する計画などの策定と推進とあって、市民、企業のほうにまちづくりに関する計画の策定やエリアマネジメントなどへの積極的な参加とあります。これに対応するのは基本目標18で、目指す姿3の丸の中に市民と行政の協働による地域まちづくりというのがありますが、これはもう少し大きく捉えてほしいと思っています。</p> <p>コンパクトで人に優しいまちをつくるためには、当然、住民が主体的に考える必要があって、むしろ行政はそれを支える側に回ったほうがいいぐらいなのです。長期的な、常設の住民の話合いの場があって、それを行政がサポートするようなイメージですよね。そういうものがあると、世界を引きつける魅力ある活力あるまちとして認知されるだろうし、先ほどのところの世界に冠たる環境都市においても、そういうところでCO2を減らしたり、コンパクトにしたりするということで、世界に冠たるまちにつながるかと思いません。</p>	<p>都市空間分野の基本目標18の目指す姿3の施策に、地域の方が主体となつて、地域まちづくりを推進する観点を追記します。</p> <p>(当初)</p> <p>一般住宅地や郊外住宅地では、持続可能な住環境の形成や地域の魅力創出のため、地域まちづくりルールの策定やまちづくり活動の支援を行うなど、地域と行政の協働による地域まちづくりの取組のほか、総合的な空き家対策を行います。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>一般住宅地や郊外住宅地では、持続可能な住環境の形成や地域の魅力創出のため、地域住民が主体となった地域まちづくりルールの策定やまちづくり活動の支援を行うなど、地域と行政の協働による地域まちづくりの取組のほか、総合的な空き家対策を行います。</p>
4	椎野委員	<p>目指す姿3の丸の一番上の、小・中学校を中心とした地区会館、児童会館などの地域コミュニティ施設の複合化や日常生活に必要な機能配置についてです。そもそも、人口構成がある程度維持できている地域であれば対策ができると思うのですが、もっと進んだところでは、昨今、札幌市内でも小学校の統廃合が間違いなく進んでいます。人口がすごく増えているところもありますが、全体としては人口減少や少子化に向かっていて、統廃合も進んでいるような状況かと思えます。ただ、段階というか、フェーズみたいなものが恐らくあって、ここの段階であればこういう対応ができるけれども、もっと人口減少が進んだ地域については、何か別の施策、市民を交えて対応が必要ということもあろうかと思えます。その大まかな戦略というのでしょうか、並列ではなく、この段階ではこういう対応が考えられますという書き方ができるといいのかなと思いました。また、その場合、札幌市内でもいいですし、他地域でも他都市でもいいと思うのですが、先進的な事例も具体的にお示しできるのであれば、市民としてもイメージが湧きやすいかなと思いましたが、具体的な事例を交えるとよりいいのかなと思いました。</p>	<p>都市空間分野の基本目標18目指す姿3に関して、学校規模適正化や学校跡活用の具体的な事例については、以下のとおりであります。この事例については、戦略編において、「コラム」として記載したいと考えております。</p> <p><具体的な事例></p> <p>札幌市厚別区の旧上野幌東小学校と旧上野幌西小学校を統合し、旧上野幌東小学校を活用したノホロの丘小学校が開校しました。旧上野幌西小学校は、学校としてはもちろんのこと、様々な役割を果たす地域の拠点的な施設であり、地域では引き続き活用したい希望があったことから、地域住民の方と共に跡活用を検討し、民間活力の活用により「カミニシヴィレッジ」が整備されました。「カミニシヴィレッジ」には、認定こども園新さっぽろ幼稚園・保育園のほか、地域の方がワークショップ、サークル活動、イベント等の多様な活動ができるレンタルスペースも整備され、地域コミュニティの核となる施設となっております。</p>

No.	委員	意見	対応
5	岡本委員	<p>目指す姿3の集合型居住についてです。今、地下鉄駅周辺等やJR駅周辺等で分譲マンションがたくさん供給されています。それはいいのですが、その後のマンションの管理がかなりネックになってくると思っています。今、老朽化しているマンションでさえ歯抜けになって、マンション管理が著しく悪い状態になりかねないところも増えてくる可能性もあるでしょうし、管理不全マンションという言い方も既にあります。そういうことも考えると、ただ集合して住む空間ができれば便利でいいですよという書き方だけではなく、管理についてちゃんとサポートするなり、要点を伝えるなりして、自立してちゃんとマンション建物の面倒を見る大切さが分かるキーワードなりを入れるとか、住まいの維持管理も念頭に追加することが必要かなと思いました。</p>	<p>民間のマンション管理については、都市空間分野の基本目標20の目指す姿1の施策に、「所有者等による分譲マンションの適切な維持・保全等に向けて、専門家の助言等を受けられる体制づくりや管理適正化推進計画の策定などにより、適正な管理を促します。」を掲げ、取り組んでいく考えです。</p>
6	高野部会長	<p>目指す姿4の四季を通じてというところの丸の一つ目にシームレスな交通ネットワークの確立という記述がありますよね。地下鉄や路面電車、バスということですが、先ほどからも出ていますように、バスよりもっと短い区間での移動手段ですよ。シェアサイクル、札幌だとペロタクシーというものがあります。雪のない地域では、非常に小型の、いわゆる電気自動車とまでは言えないですが、1人乗りの移動器具が普及しているところもあって、先ほど牧野委員からお話がありましたけれども、そこに出かけるときになかなか歩けない人も含めて、シームレスというのは非常に大きな足から本当にちょっとした移動までを含めた移動手段の組合せですよ。札幌は積雪が非常に多いので、冬になってしまったら、自転車で夏に快適なところでも、吹雪の中、雪をこいで行かなければならないというふうに極端になってしまいうわけで、では、何ができるのかというのは難しいのですけれども、四季を通じたシームレスというのは非常に重要な概念だと思うので、小さな移動手段も含めて記述すべきだと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標19の目指す姿1の施策に、小型モビリティ等の「新たなモビリティ」の動向を踏まえながら、札幌駅周辺地域におけるモビリティ・ネットワークの形成等に関する観点を追記します。</p> <p>また、郊外住宅地エリア等において、公共交通ネットワークを維持するため、限られた乗務員で効率的な運用を図る「デマンド交通」の観点を追記します。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>基本目標19 目指す姿1：都心のまちづくりを支える交通体系の強化や居心地が良く歩きたくなる空間の形成に向けて、(略)、<u>新たなモビリティの動向を踏まえたモビリティスポット配置などの検討を進めるとともに、</u>(略)。</p> <p>基本目標18 目指す姿4：公共交通を軸とした持続可能でシームレスな交通ネットワークの確立に向けて、(略)、<u>デマンド交通の導入</u>や交通結節点における乗継機能の強化・移動の円滑化などを行います。</p>

No.	委員	意見	対応
7	岡本委員	<p>都心は、景観の切り口があまり強調されていないのが残念だということが一つです。景観について言うと、景観的にさっぽろテレビ塔に対してどう配慮するかという取組もあったのです。ただ、全体として、札幌のまちを感じる、札幌らしいと思う景観を担っているところに配慮が行き届いていないように感じます。具体的には、大通のテレビ塔から大通公園を見た景観ですが、これからどんどん変わっていくことになると思いますし、かなりのボリュームのものが出てきたりもするでしょう。駅前通から設定されている壁面60メートル程度以下というストリートウォール形成の話があって、通りとしての景観形成への配慮はあるのですが、眺望点という景観形成への配慮がありません。民間が活力を導入してくださるのはすごくよいのですが、民間のお金でやってもらっているから何も言えないという状態になりますと、本当にぼこぼこのまちになりかねないのです。そこの取り合いをどうしていくかといったとき、景観はかなり大きなワードになると僕は思っているの、都市景観の持つ役割をもう少し明確に丸印で出していただき、札幌らしさを担っている景観については、より札幌らしさの魅力が高まるように積極的に調整していきますという話を載せていただきたいと思います。今後、100年、150年と続いていくときに、札幌の魅力はこうあるからと札幌のまちの魅力向上に貢献し、それが自分の企業のブランドイメージにもつながっていくのだと考えられる方々に本当は来てもらわないといけません。開発しました、貸し出しました、収益が上がりました、では、いなくなりますという人たちが来られるとすごく困るので、そのキーワードとして景観や眺望点の設定というのはすごく重要だと思いますから、そういうところに踏み込んで記載してほしいなと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標19の目指す姿1の施策に、景観の観点を追記します。</p> <p>(19-1当初案)</p> <p>民間投資とノウハウを活用しながら土地の高度利用と都市機能の更新を図り、持続可能で魅力のある都心を形成するため、再開発の誘導・調整やエリアマネジメントの支援などを行います。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>持続可能で魅力ある都心の形成に向けて、民間投資とノウハウを活用しながら土地の高度利用と都市機能の更新を促進するほか、再開発の誘導・調整やエリアマネジメントの支援や、<u>まちなみへの配慮や眺望景観の創出に係る誘導</u>などを行います。</p>

No.	委員	意見	対応
8	椎野委員	<p>目指す姿1の居心地がよく歩きたくなるウォーカブルな空間形成の推進についてです。</p> <p>ここに書かれているとおり、都心は非常にみどりが乏しいということが以前からずっと課題になっていて、今、都心のみどりづくりを札幌市でも進められておられると思いますが、その際に大事なのは、都心部なので、いろいろな機能が集約されており、便利な一面がある一方、実際に歩いて居心地がいか、スムーズに移動ができるかもあるわけですが、そうではない側面があるのかなと思います。特に、大通公園というか、都心部のところで、マイカーなど、交通の流入をどうコントロールするかについて、施策があって盛り込めるのであれば、それも併せてお示しいただいたほうがいいかなと思います。</p> <p>また、大通公園については、今、連続化が話題になっていますけれども、非常にスムーズなウォーカブルな空間形成の推進には有効かとは思いますが、もちろん、全部の公園をつなぐのは現実的ではないと思いますが、非常に可能性のあるところで、市民も快適に歩けるようなところについては連続して空間を広げていく、みどりをつなげていくという考え方もこの中に盛り込んでもいいのかなと思いました。</p>	<p>都市空間分野の基本目標19の目指す姿1の施策に、大通公園のあり方検討について追記します。</p> <p>(当初案)</p> <p>みどり豊かなうるおいのある都心を形成するため、公園や道路などにおけるみどりの整備・改善に取り組むほか、再開発等の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出や、まちづくり団体などとも連携しながら、みどりのネットワーク化を推進します。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>みどり豊かなうるおいのある都心を形成するため、<u>大通公園のあり方検討のほか、公園や道路などにおけるみどりの整備・改善に取り組むとともに、再開発等の機会を捉え、官民連携による効果的なみどりの創出や、まちづくり団体などとも連携しながら、みどりのネットワーク化を推進します。</u></p>
9	岡本委員	<p>敷地内だけで民間の活力を活用するのではなく、敷地をはみ出し、例えば、道路の下でも力を合わせて利用していくということがあるかと思えます。敷地の中だけで完結させ、そこで活力を生かしてくださいではなく、道路下の地下通路などに民間のお金を導入して、バックには何か仕組みが必要だとは思いますが、トータルで都市の利便性が高まる、あるいは、環境への配慮が高まるということを考えていただきたいのです。そのため、もうちょっと広い範囲での民間と行政との関わり方といいますか、敷地ラインを超えて設定できるよう、少し自由度を高めて進められることが必要だと思ったので、発言しておきます。</p>	<p>都市空間分野の基本目標19の目指す姿1の施策に、官民連携の観点を追記します。また、地下歩行ネットワークについては、都市空間分野の施策のほか、分野横断的な施策である「ウェルネス」においても、ウォーカブルシティの推進として、地下歩行ネットワークの充実を掲げ、取り組んでいく考えです。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>都心のまちづくりを支える交通体系の強化や居心地が良く歩きたくなる空間の形成に向けて、(略)、<u>官民連携による歩行環境の改善、地上・地下の重層的かつ安全安心な歩行空間の整備による回遊性向上や、快適な滞留空間の創出などを行います。</u></p>

No.	委員	意見	対応
10	岡本委員	<p>まちの改善につなげるための容積率緩和による誘導があって、容積率緩和による誘導策で引っ張っていき、まちの在り方を変えていこうという仕組みになっています。ただ、もうちょっと先を見ていくと、もしかしたら容積率緩和による誘導はあまり効果がなくなっていくのではないかとも思っています。それよりも、暮らしなり、まちの楽しさなり、過ごしやすさなりを定量的に把握できる別の指標を見つけ、容積を上げるのではなく、別の側面を評価して、何らかの形で優遇と言うのも変ですが、ここに来たらよりよいことがあるというあめ玉を変えていかないといけないと思っています。今のようなたくさん床があれば貸せるからいいよねというロジックではない新しいロジックを札幌として見つけ、日本の中でも先行して展開できるようになると望ましいと思います。今走っている仕組みもありますが、並行して検討していただけたらありがたいと思います。</p>	容積率緩和以外のインセンティブについても、検討していきます。
11	高野部会長	<p>ご承知のように、2030年に向け、札幌駅前を中心に非常に大規模な開発工事が集中的に行われます。戦略目標で工事中の話をするのもなんですが、かなり長期にわたることもあり、いわゆる建設事業中のアセスメントといえますか、例えば、バスターミナルも使えなくなるし、駅前地区が今とは違う形でほとんど商業施設が使えなくなったり、一部使えたりするのですけれども、非常に使いにくくなったりします。</p> <p>しかし、そうした事業中でも、市民生活をはじめ、観光で訪れた人たちにあまり大きな負の影響が出ないような、それを和らげるようなこと、そういったマネジメントが非常に重要だと思うのです。特に、今回のように、駅前地区でこんなにたくさんのプロジェクトが集中的に行われるということはありませんでした。それをどう表現するかはあれなのですけれども、非常に重要なことだと思っています。</p>	北5西1・西2地区等における工事にあたっては、利用者への適切な周知や事業者間の情報共有を図ることにより、利用者への影響が最小限となるよう、対策を講じる予定です。

No.	委員	意見	対応
12	牧野委員	<p>基本目標19の下の目指す姿4についてです。道内の都市を結ぶための丘珠空港のことなども出ていますよね。丘珠空港はこれからどんどん活用されていくようなことを今検討しているようですが、飛行場を出てからのアクセスといいますが、どんな人にでもつながるような、それも忘れてはいけないことだと思います。</p> <p>私も丘珠空港を使いたいと思うのですが、そこまでどう行こうかなと考えてしまうのです。あるいは、そこから戻ってくる時に車椅子で移動ができるかなど、これからは、社会の中の課題として、つながるといこともぜひ頭に置いていただきたいと思います。</p>	<p>都市空間分野の基本目標19の目指す姿4の施策に、安定性・代替性及びアクセス性の観点を追記します。また、バリアフリーについては、分野横断的な施策である「ユニバーサル」において、移動経路・建築物のバリアフリー化を掲げ、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備を目指しております。</p> <p>さらに、生活・暮らし分野の基本目標5の目指す姿2の施策にも「四季を通じて、誰もが円滑に移動することができる環境の整備に向けて、地下鉄駅などの旅客施設や道路、学校などの公共施設のバリアフリー化を進めるほか、タクシー・バス乗り場等の冬季の乗継機能強化を検討します。」を掲げ、取り組んでいく考えです。</p>
13	高野部会長	<p>目指す姿4の広域交通ネットワークについてです。北海道、札幌の国際会議の夏と冬の季節ごとの開催件数を調べると、当たり前かもしれませんが、本州と比べると北海道は冬に国際会議をほとんどやらないのです。それは、何も真冬に国際会議をやる必要はないということもあるのでしょうかけれども、万が一、飛行機が止まってしまったら大変なことになるので、冬に国際会議を開かないというのは当然の選択だということです。</p> <p>でも、広域交通ネットワークで求められるのは安定性なのです。でも、空港を常に開けておけということにはなかなかならないので、場合によっては、国内になりますけれども、新幹線と飛行機の代替関係、それから、情報提供や乗換えをスムーズにするような仕組みなど、冬の広域交通ネットワークの安定性を高めることは非常に重要な施策だと思います。</p> <p>ここではそういうことまで書き込まれていないのですが、特に冬季における長い足の安定性を戦略的にいろいろな形でやるべきと私は思っているので、ご検討をいただければと思います。</p>	<p>(当初) 道内の都市や観光地を始め国内外の地域とのつながりを深めるため、創成川の機能強化や丘珠空港の利活用促進など、人や物の移動の円滑化に係る取組を行います。</p> <p>(修正案) 道内の都市や観光地を始め国内外の地域とのつながりを深めるとともに、<u>代替性・多重化を確保した広域交通ネットワークを形成するため、創成川の機能強化や丘珠空港の利活用促進のほか、<u>広域交通結節点からの2次交通の充実・強化</u>など、人や物の移動の円滑化に係る取組を行います。</u></p>

No.	委員	意見	対応
14	山中委員	横断型な視点だと思うのですが、こういうところになると、CO2というのか、環境に優しいということが消えているように見えるのです。例えば、都市の基盤整備とあるのだけれども、環境に配慮した都市の基盤整備など、何かを入れていただかないと、ここはここでそういうイメージに捉えてしまうという疑問が湧きます。	都市空間分野の基本目標20の目指す姿1の施策に、環境配慮の観点を追記します。 (修正案：下線部追記) 都市基盤の維持・更新等に係る費用を縮減・平準化するため、将来の人口動態などを見据えるとともに、 <u>環境への配慮のほか</u> 、ICTや先端技術なども活用しながら、公共のインフラや建築物の効率的かつ計画的な維持・更新などを行います。
15	岡本委員	目指す姿2の「公共施設では」についてです。よくよく考えると、行政の文書や手続がかなりデジタル化されていくとか、印鑑が必要なくなるという話になっているわけですが、そこにICTの話がきくと出てくると思うのです。そして、前にもお伝えしたかもしれないが、空間ボリュームがこれまでほど要らなくなるわけです。集約化、複合化という表現にしてくださいと思うのですが、大切なのは有効活用です。ただ小さくすればいいよねという話もあるかもしれないですが、余った空間をより有効に使っていく、市民の皆さんの暮らしの利便性がより高まったり、豊かさが高まったりする方向に使っていくということも考えられるので、デジタル化による手続等の変化とそれから生まれてくる余裕空間の積極的な活用についてもう少し表現されてもよいと思いました。	都市空間分野の基本目標20の目指す姿2の施策に、デジタル技術の動向、空間活用の最適化の観点を追記します。 (当初) 市民ニーズや社会経済情勢を捉えた多様で柔軟なサービスを提供するため、老朽化した区役所など公共施設の更新にあわせて、民間活力やノウハウを活用しながら、施設の集約化・複合化や、効率的かつ効果的な配置・整備などを行います。 (修正案：下線部追記) 市民ニーズや社会経済情勢に応じ、 <u>デジタル技術の進展等を見据えた多様で柔軟なサービスを提供するため、老朽化した区役所など公共施設の更新にあわせて、民間の活力やノウハウを活用しながら、施設の集約化・複合化を行うほか、既存施設を含め、効果的なレイアウト整備等による空間活用の最適化</u> を行います。

No.	委員	意見	対応
16	椎野委員	<p>目指す姿3の二つ目の丸の人の人中心の居心地がよく歩きたくなる空間を形成するためというところは、人の視点で大変いいなと思ったのですが、一方、下の写真は赤れんがテラスのところでしょうか。要は、公園や公共空間など、人が滞留するような場所ではないところの利用を促していくということなのか、公園以外ということなのか、つまり、歩行者専用道路の活用を進めるといいますか、そういうところを開拓していくということなのですよ。ありそうな場所は想像ができるので、それ以外の場所も含めて広げていけるといいなと思います。</p> <p>また、先ほどから出ている冬ですね。冬に屋外を歩きたい人は、観光で来られている方以外はあまりいないと思うので、例えば、創生スクエアのように高校生なんかも自習で利用できる場所など、屋内でも使えるような空間を民間の組織や何かにもぜひ呼びかけていくなど、冬季も利用できるような屋内の空間も含めて検討されるといいのかなと思いました。</p>	<p>都市空間分野の基本目標20の目指す姿3の施策に、屋内空間の活用の観点を追記します。</p> <p>(当初)</p> <p>“人”中心の居心地が良く歩きたくなる空間を形成するため、官民の都市基盤や未利用地などの空間の利活用を促進するほか、安全・快適に滞在できる空間などを創出します。</p> <p>(修正案：下線部追記)</p> <p>“人”中心の居心地が良く歩きたくなる空間を形成するため、官民の都市基盤における<u>屋内及び屋外空間</u>や、未利用地などの利活用を促進するほか、安全・快適に滞在できる空間などを創出します。</p>